

nite

# NITE製品安全センターの取組 ～製品安全の社会実装展開～

独立行政法人製品評価技術基盤機構  
製品安全センター所長 川崎裕之

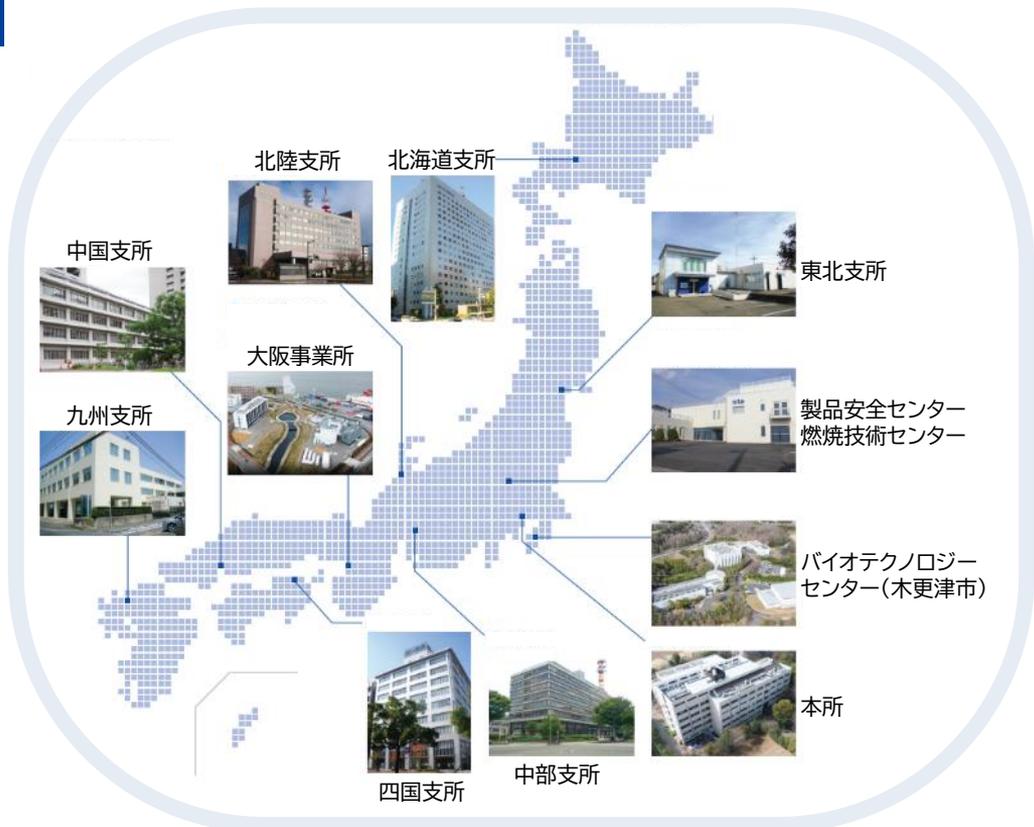
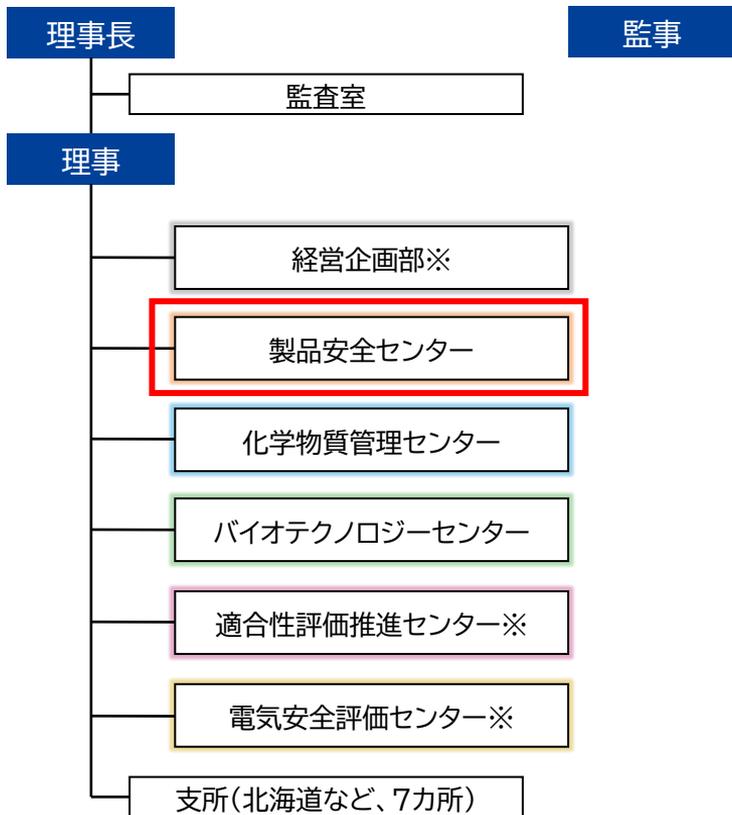
## 基本理念

確かな技術と信頼できる情報をもとに  
くらしの安全と未来への挑戦を支え続けます

## スローガン

安全とあなたの未来を支えます  
Safety and your Future with NITE

- 名称 独立行政法人製品評価技術基盤機構  
(National Institute of Technology and Evaluation)
- 設立 2001年4月(前身の輸出絹織物検査所は1928年1月)
- 役職員数 687名(2025年1月時点)
- 予算規模 約88億円(2025年度事業計画)
- 業務内容
- 経済産業省が所管する独立行政法人の中で唯一の行政執行法人として、各種法令や政策における技術的な評価や審査などの業務により、我が国の産業を支えています。
  - また、業務を通じて蓄積された知見やデータなどを産業界や国民の皆様提供するとともに、諸外国との連携強化や国際的なルールづくりなどに取り組み、イノベーション促進や世界レベルでの安全な社会の実現に貢献しています。



※令和8年4月1日に改組予定

製品安全センターは、経済産業省による製品安全政策の下、消費生活用製品に係る事故の情報収集、調査・分析を行い、その結果をもとに製品事故の再発防止や未然防止に向けた情報を発信し、人々の安全な暮らしを確保する事業を実施。

- ①国の法律(法令)施行業務・製品安全施策の支援
- ②事業者の製品安全活動への支援
- ③消費者に向けた注意喚起

## ①国の法施行業務・製品安全施策の支援

- ▶ 製品事故情報の収集・原因究明調査
- ▶ 製造・輸入事業者への立入検査
- ▶ 電気用品安全法に係る整合規格案の確認
- ▶ 事故調査結果の評価・分析に基づく、製品安全施策への技術的な提案



NITEによる再現試験



PSLPGマーク

ガストーチの製品事故について着実な調査・報告を積み重ねた結果、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律において、ガストーチの安全基準が定められた。

## ②事業者の製品安全活動への支援

- ▶ 事故調査結果をデータベースへ反映し、NITEホームページでの公表
- ▶ 「誤使用・不注意による製品事故リスクを低減した製品に対する表彰・表示制度」(プラスあんしん)の取組を通じた事業者へのリスクアセスメントの普及・実装
- ▶ 製品リスクアセスメント支援ツール(SAFE-Pro)の開発・提供



製品事故発生シナリオを参照できるツールとして、事業者のリスクアセスメントを支援



プラスあんしん  
ロゴマーク

リスクアセスメントの考え方を周知・広報し、制度の普及にも貢献

## ③消費者に向けた注意喚起

- ▶ 誤った使用や不注意による製品事故を防ぐために記者会見を毎月実施
- ▶ 社会的な話題にリンクしたタイムリーな製品安全情報をSNSに投稿



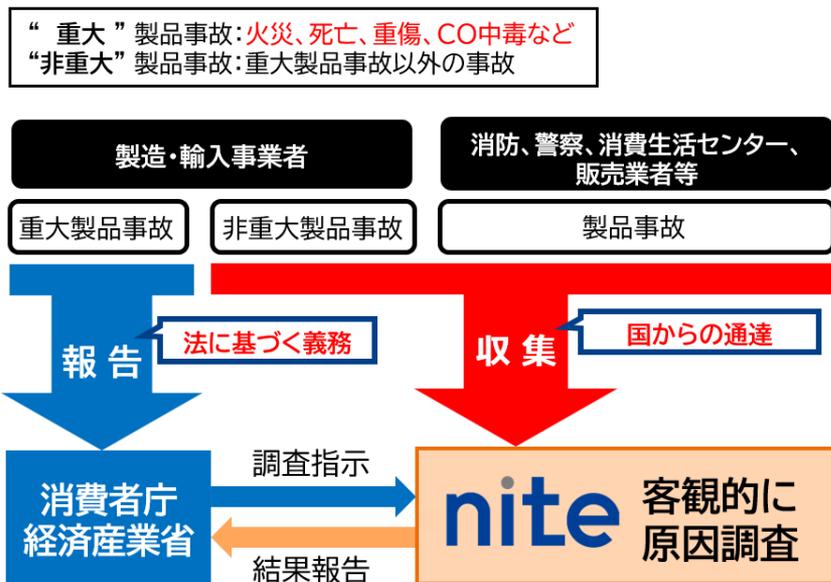
記者会見の様子



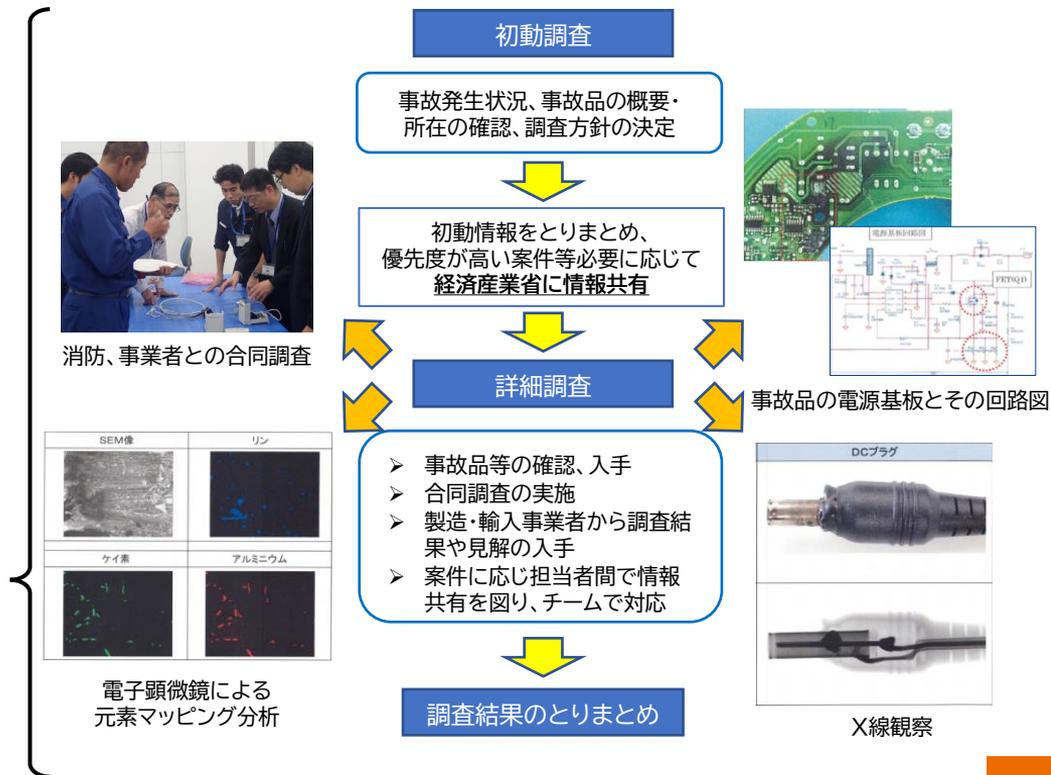
数十万~百万回  
以上閲覧される  
投稿も!

## 消費生活用製品の事故調査～事故情報収集制度と事故調査の流れ～

### 製品事故の情報収集



### 事故原因調査の概要



## 喫緊の社会課題への迅速な対応～リチウムイオン電池搭載製品の事故防止に向けた取組～

- 令和7年12月にNITE内に立ち上げたLIB搭載製品の事故調査を専門的に担当するチームのほか、東京、大阪及び7つの支所並びに燃焼技術センター(群馬)の情報や知見を結集して効率的な調査が可能な体制を構築した。
- LIB搭載製品の事故は焼損が著しく原因に関わる情報を得られない場合も多く、同じ型式の製品を入手して推定される原因を検証するなど多角的に事故原因の究明を進めていく。

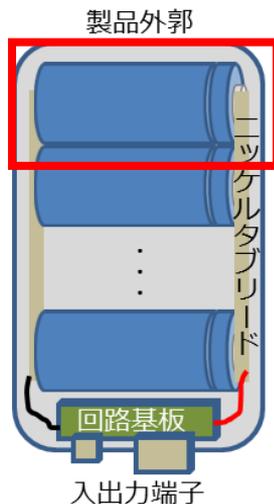
### <モバイルバッテリーの事故調査イメージ>



膨らんだモバイルバッテリー【NITEの再現映像】

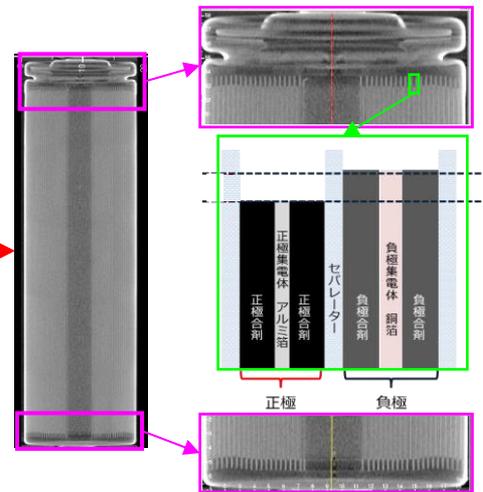


発火したモバイルバッテリー【NITEの再現実験】



モバイルバッテリーの内部構造

X線による  
内部構図の観察



リチウムイオン電池セル(円筒型)のX線CT断層画像と構造イメージ

## ②事業者の製品安全活動への支援

### リスクアセスメントとは

- リスクアセスメントの本質は事故の未然防止であり、Guide51(JIS Z8051:2015)では「リスク分析及びリスク評価からなる全てのプロセス」と定義されている。
- 全ての製品及びシステムにはハザードが含まれているため、あるレベルの残留リスクを含んでいる。
- この残留リスクを許容可能なレベルにまで低減するため、リスクアセスメント及びリスク低減の反復プロセスが必須。
- その際は使用者が弱者の場合に配慮しつつ、合理的に予見可能な誤使用を同定し、製品の全ライフサイクルにおいて実施することが望ましい。

#### リスクとは「危害の発生確率及びその危害の度合いの組合せ」

ISO/IEC GUIDE 51(第3版)、ガイド51、JIS Z8051:2015  
(risk : combination of the probability of occurrence of harm and the severity of that harm)

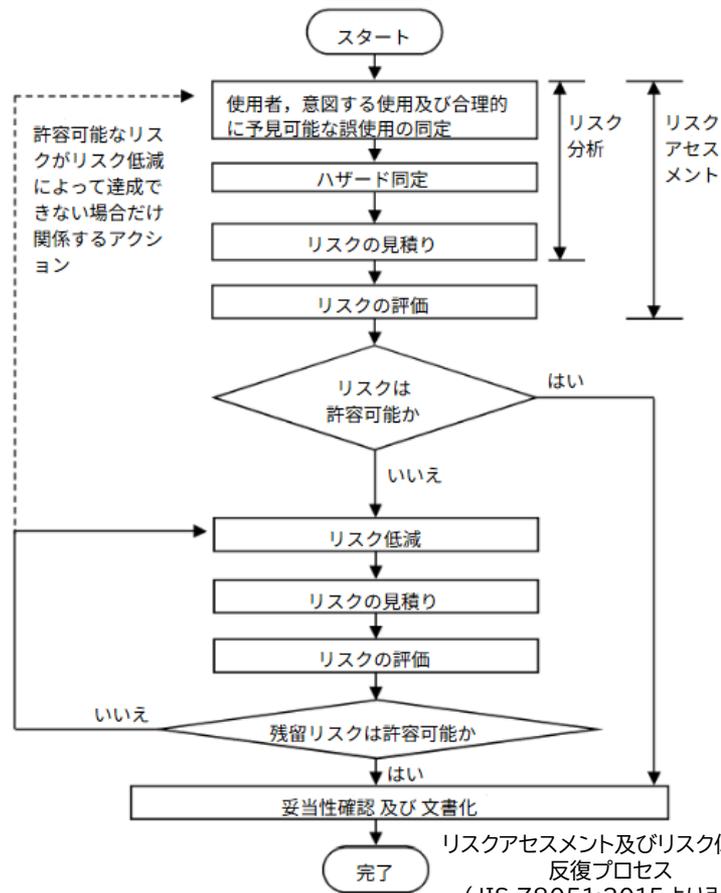


**安全**とは許容不可能なリスクがないこと※  
**ハザード**とは危害の潜在的な源(危険源)

**許容可能なリスク**とは現在の社会の価値観に基づいて、与えられた状況下で、受け入れられるリスクのレベル

危険源に人が接触(暴露)すると危険事象が発生し、その確率(頻度)と危害の程度によってリスクの大きさが決まる。

※事故が少ないことではない。

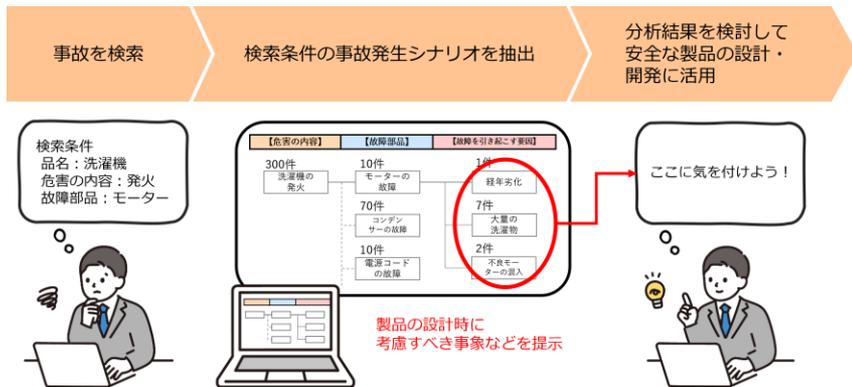


リスクアセスメント及びリスク低減の反復プロセス  
(JIS Z8051:2015より引用)

### リスクアセスメントの普及～SAFE-Proの利活用を推進～

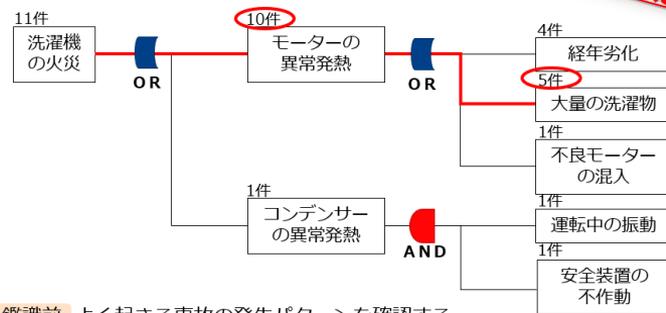
- SAFE-Proは、NITEが消費生活用製品安全法に基づいて収集した製品事故情報の一部を深掘りした情報を詳細に検索できるツールであり、事業者や大学などで製品の設計や品質評価等に携わる方々に幅広くご利用いただいています。
- 信頼性解析手法の考え方をもとに、故障部品から事故に発展したメカニズムや多発性の高い事故のシナリオを把握することにより、設計や開発を行う際に安全上の対策を講じるべきポイントを分かりやすく捉えることができます。

#### SAFE-Proの利用イメージ



#### FTA(故障の木解析)の具体例

例：出火元と疑われる洗濯機の鑑識で活用。  
※これはイメージです。



設計・開発時等に配慮すべきポイントがわかる！

鑑識前 よく起きる事故の発生パターンを確認する。  
モーター故障が多い⇒原因として経年劣化や大量の洗濯物

ご利用者様の声

「SAFE-Pro」を活用することで、製品リスクアセスメントの効率や効果が高まっていると感じます。今後もNITEと連携しながら、さらなる安全性向上に取り組んでいきたいと考えています。  
(パナソニックホールディングス株式会社 プロダクト解析センター 様)

「SAFE-Pro」は、リアルなデータを用いて対象製品の危害事象を把握でき、操作も簡単です。抽出した事故シナリオを基にリスク分析に反映させることで、製品事故の未然防止や安全性の高い製品設計につながると考えています。  
(SOMPOリスクマネジメント株式会社 様)

### リスクアセスメントの普及～プラスあんしんでの取組～

- NITEは、制度設計当初から携わり、本制度の根幹となる製品事故リスクの評価方法として**事故調査で用いているR-Map手法の活用を提言し、具体的なリスク低減シナリオの例を作成。**
- 令和6年度には、本番と遜色ない審査体制を構築した模擬審査を遅滞なく実施し、**独自開発のリスクアセスメント支援ツールSAFE-Proの企業連携を開始する等、事業者の参画を後押ししてきたところ。**
- 令和7年度の本制度の運用開始に伴い、NITEは**約30回(1回当たり約90分間)に及ぶ事前相談**に対応し、相談事業者に必要なリスクアセスメントの指導等を行ったことで、計10社の応募を実現。
- NITEが実施主体の**リスクアセスメント結果妥当性評価委員会を開催し、委員のコメントも含めて、10社の製品におけるリスクアセスメント結果の妥当性を厳正に審査・評価し、審査・運営委員会(親委員会)に報告した。**
- 今後もMETIとともに本制度を推進し、**事業者へのリスクアセスメントの普及**や消費者が安全な製品を選択できる「**製品安全市場**」の創出に向けて注力する。

プラスあんしんとは誤使用などによる事故の未然防止に役立つ機能を持つ製品に、特別なマークを表示し、消費者が安全な製品を選択できるように支援する制度



### 令和7年度でのプラスあんしんの取組



リスクアセスメント妥当性評価委員会



リスクの見積もりと評価(R-Map)



### METI・NITE

- 事業者への本制度の普及
- 事前相談を通じたリスクアセスメントの普及・理解促進

事業者

消費者

- 同業他社製品との差別化
- 事故発生率の低下

消費者満足度向上

- 安全機能が分かりやすい製品を選択して購入可能
- 誤使用・不注意の低減

## 製品安全におけるNITEの情報発信～幅広い媒体で必要な安全情報を届ける取組～

- NITEでは、誤使用・不注意による製品事故の防止のため、毎月、プレスリリースに合わせて記者説明会を実施。
- そのほか、メールマガジンやソーシャルメディアに加えて、楽しみながら製品安全を学ぶことができる“かるた”にするなど、様々な手法で幅広い世代に情報を提供し、製品安全文化の醸成を目指している。

### ○最近のプレスリリース

令和8年2月26日発表

[「無駄にしない」を「事故」にしない ～安全なリユースのための5つのチェックポイント～](#)

令和8年1月29日発表

[冬の“もふもふ”接近注意報！ ～ガスこんろの事故で気を付けたい4つのポイント～](#)

令和7年12月25日発表

[『できた！』に潜むピンチ ～冬に増加、「やけど」「おもちゃ」の事故から子どもを守る～](#)

令和7年11月27日発表

[除雪の前に、危険を排除 ～除雪機の事故を防ぐために気を付けるポイント～](#)

令和7年10月30日発表

[ストーブとの程よい距離感が大切です ～「電気」「石油」暖房器具の事故を防ぐ4+1のポイント～](#)

令和7年9月25日発表

[脱・取説キャンセル界限 ～「電子レンジ」や「IHこんろ」等の調理家電の事故を防ぐポイント～](#)

### ○「製品安全の専門家」としてのメディア露出



Xアカウント テレ東BIZ (@txbiz\_ondemand), 2025年7月28日投稿  
テレビ東京WBS 2025年7月25日放映の内容について

### ○YouTubeでの動画投稿



### ○NITE公式SNSアカウントはこちらをチェック！



YouTube



X  
(旧Twitter)



Instagram

## 製品事故の未然防止・再発防止のために～消費者の行動変容を促す工夫～

- プレスリリースを行う際は製品事故の再現動画も併せて制作することによって、報道機関のみならず、関連省庁や地方自治体、その他関連する業界団体による情報発信にNITEのコンテンツが活用されることで消費者への訴求力が強化。
- キャッチーな見出しに加えて、“なぜ”事故に至ったかだけでなく、“どうすれば”事故を防げるかワンパッケージで伝える消費者目線のコンテンツ作り。
- また、社会的な話題を敏感に察知し、関連する製品安全情報をSNSを通じてタイムリーに発信。

NITEの注意喚起ポスター

NITEの  
情報発信が  
活用された例

### 令和7年度実績(令和8年2月末集計)

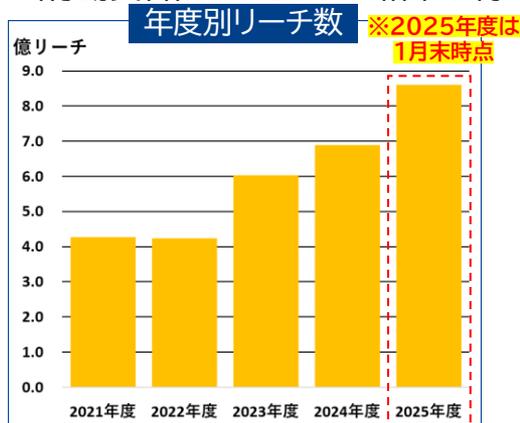
・プレスリリース回数	16回
・報道機関からの取材件数※	774件
※プレスリリース当日分を除く	
・テレビ放映回数	約1,000回
・WEBニュース掲載回数	約5,000回
・新聞掲載回数	約80回

モバイルバッテリーを収納棚に入れられない! ~7月8日から機内での取扱いが変わります~(国土交通省)  
<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001897567.pdf> 別紙1抜粋

### ③消費者に向けた注意喚起

## 製品事故の未然防止・再発防止のために～いかに消費者の行動変容を促したのか～

- 情報発信においては、単なるアウトプットではなく、消費者に行き届いた(リーチした)結果として、安全行動が取られたこと、すなわち製品事故の未然防止・再発防止を達成するというアウトカムを重要視しているところ。
- 令和7年度では、リチウムイオン電池搭載製品に係る情報発信をはじめ、複数のメディアに取り上げられた結果、近年で最高のリーチ数※(年間リーチ数約9億人)を獲得した。
- 行動変容においては、令和6年度のサーベイでNITEの情報発信を受けとった**78.6%**という高い水準で安全行動が実施(行動変容)されたという結果が得られ、プレスリリースアワード2024のBEST101を受賞する等外部からも評価された。

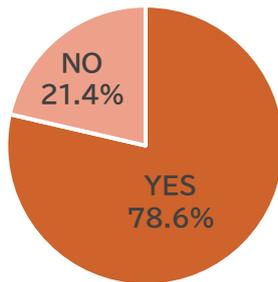


リーチ数の推計方法

※リーチ数:機構が配信した情報を消費者が「どれだけ受け取ったのか」の推定値

### 行動変容調査の調査結果例

Q. NITEの注意喚起情報を見たことで安全のために実際に行ったことがある



<調査対象>  
全体: 800名  
男女: 400名  
各年代: 50名

※年代区分  
10代~80代の8区分



<NITEの注意喚起情報への接触により実際に行ったこと>

→ 製品の安全チェック、家族・友人への情報共有、説明書確認、自身や家族・友人の危険行動の改善について行動変容を示す。  
事故経験層は、より行動喚起度が高い。

### プレスリリースアワード受賞



**独立行政法人の受賞は初!**  
「もふもふブッシュ」にご用心  
~「ペットによる火災事故」を防ぐポイント~

(審査員コメント抜粋)  
わかりやすくアイキャッチなタイトルを付けることにより、「ペットによる火災事故」について、ただ注意喚起するだけではなく、**一般生活者の共感を促し、行動変容にまで繋げようという発信者側の意図が感じられる。**

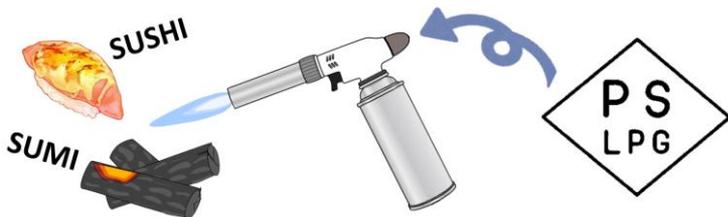
区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
NITE全体	A	A	A
製品安全センター	A	A	S

※S～Dの5段階評価

**いずれも約17年ぶりとなる規制制度改革の実現に尽力。**  
**経済産業省との連携の下に的確な法執行支援に努めていく。**

## ●ガストーチの規制対象化への貢献

NITEは、製品事故の調査結果に基づいて、事故原因を特定するとともにガストーチへの安全機構搭載の必要性等を提言し、**令和7年2月**の液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律の改正政省令施行により、「携帯液化石油ガス用バーナー」が規制化され、粗悪品排除と安全性の高い製品の市場醸成に寄与



## ● 子供用特定製品の規制導入の貢献

**令和7年12月**施行の改正消費生活用製品安全法において新たに「子供用特定製品」が規制化されるにあたり、NITEでは特に玩具について海外・国内規格の技術的解析を迅速に実施し、技術基準省令の原案作成等を通じて実効的な安全規制実現に貢献

